

2020年12月のエリ漁獲アユの地点別成長比較

久米弘人

1. 目的

12月のエリにおけるアユの漁獲状況は、ふ化時期とその後の成長が大きく影響する。そこで、2020年12月のエリ漁獲アユの耳石解析から地点ごとのふ化時期と、成長を比較した。

2. 方法

2020年12月1日に堅田、中主（以下、南部）、両浜（以下、中部）、今津、百瀬、西浅井（以下、北部）の各漁協においてエリで漁獲されたアユから、1漁協あたり30尾ずつ抽出し、体長を測定後、耳石を摘出した。耳石解析にはラトックシステムエンジニアリング社製の耳石日輪解析システムを用いて、日齢査定を行うとともに、測定した日周輪間隔と耳石径からBiological intercept法により体長を逆算推定した。個体ごとに日毎の体長差から成長速度を求め、ふ化時期別にふ化から11月末までの平均成長速度を地点別に比較した。

3. 結果

エリで漁獲されたアユのふ化時期は南部から中部では9月中旬生まれと9月下旬生まれがほぼ同じ割合であったが、北部では多くが9月下旬生まれであった（図1）。9月中旬生まれの平均成長速度は、0.45~0.55 mm/日であり、北部・中部のほうが南部よりも成長がよかった（図2、Steel-Dwass 多重比較、 $p < 0.05$ ）。また、9月下旬生まれの平均成長速度は、0.43~0.49 mm/日であり、中部の成長が最もよかったものの、地域間での明確な差はなかった（図3、Steel-Dwass 多重比較 $p < 0.05$ ）。

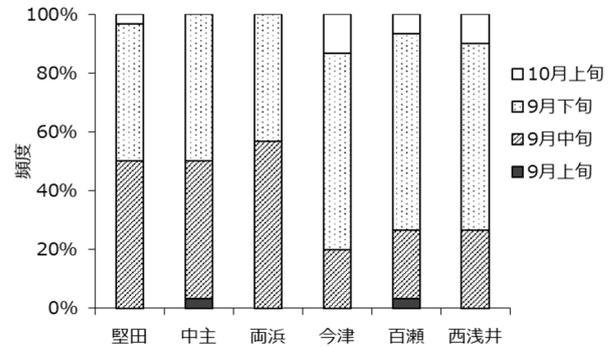


図1. 12月1日エリ漁獲アユのふ化時期割合

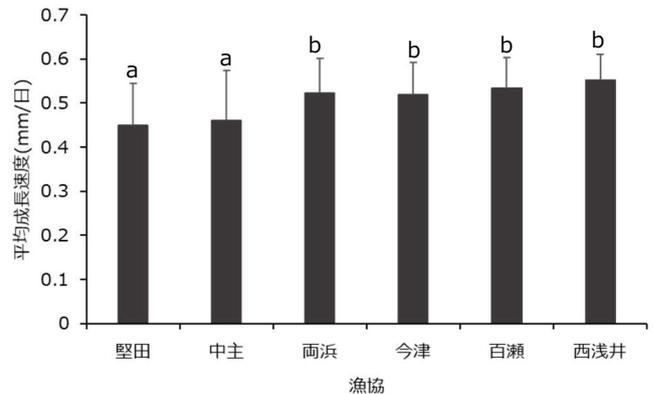


図2. 9月中旬生まれの平均成長速度比較

※異符号は有意差ありを示す (Steel-Dwass 多重比較 $p < 0.05$)

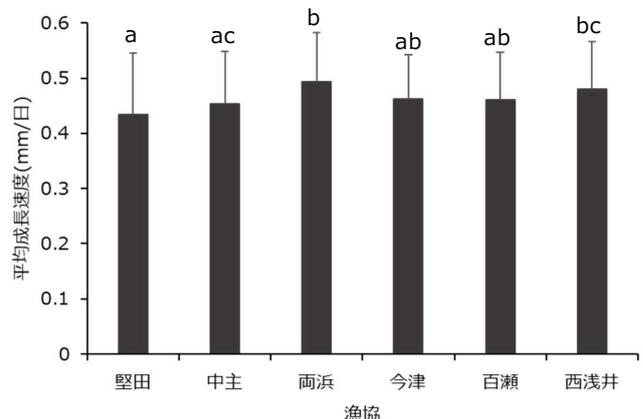


図3. 9月下旬生まれの平均成長速度比較

※異符号は有意差ありを示す (Steel-Dwass 多重比較 $p < 0.05$)